

報 告

昭和四十八年度大会の概況 日本思想史学会の昭和四十八年度大会は十月二十七日(土)・二十八日(日)・二十九日(月)の三日間にわたり開催された。あいにくの雨天にもかかわらず、のべ二五〇名の会員が参集し、盛会であった。第一日、第二日は総会並びに研究発表が学習院大学を会場として催された。第一日目は、二会場に分れて自由発表が行なわれた。発表者は次の十六氏である。

- | | |
|---------------------------|-----|
| 1. R・ベネディクト批判の概念 (3) | 田 中 |
| —— 義の外面の必然と切腹 —— | |
| 2. 記 説話の再 批判 | 古 田 |
| —— 九州王朝の新視点から —— | |
| 3. 万葉人の自然 観 | 高 橋 |
| 4. 古代仏教における「贖」の意義 | 池 見 |
| 5. 止 観的美意識の展開 | 三 崎 |
| 6. 正法眼蔵の時間論 | 新 保 |
| 7. 吾妻鏡にみられる道理尊重の形成過程 | 佐 藤 |
| 8. 荻生徂徠における「公」について | 高 橋 |
| 9. 長者教と日本永代蔵 | 藤 原 |
| 10. 幕末尊王論の展開過程 | 山 口 |
| 11. 福田行誠の人と思想 | 奈 良 |
| 12. 初期植村正久におけるキリスト教の受容と神観 | 溝 口 |
| 13. 小崎弘道の研究 | 原 島 |
| 14. 清沢満之における「獲信」の構造 | 渡 辺 |
| 15. 国語教育にあらわれた我と汝 | 宮 崎 |
| 16. 高田保馬におけるアジア人連帯の思想 | 家 坂 |

東京教育大学助教授	高 橋 進
仏教大学講師	池 見 澄
池坊短期大学教授	三 崎 義
中央大学大学院	新 保 和
捜真女学院教諭	佐 藤 博
東北大学大学院	高 橋 巳
ノートルダム清心女子大学助教授	藤 原 博
九州大学教授	山 口 宗
淑徳大学助教授	奈 良 博
芝浦工業大学講師	溝 口 潔
東海大学講師	原 島 正
東北大学助手	渡 辺 靖
宮城学院女子短期大学講師	宮 崎 和
東北大学教授	家 坂 之

右の研究発表終了後、総会が開かれた。事務局より昭和四十七年度決算報告がなされ、四十八年度予算案、事業計画案が提案された。審議の結果これらを承認した。総会終了後六時より学習院大学輔仁会館において懇親会が催された。

大会第二日目は、「日本思想史の方法——津田、村岡、和辻氏における価値観と歴史叙述をめぐって——」と題して主題発表が行なわれた。発表の後、共同討議がなされた。発表者は次の三氏であった。

- | | | |
|--------------|--------------|-------|
| 1. 津田左右吉氏の方法 | 早稲田大学教授 | 栗田直躬 |
| 2. 村岡典嗣氏の方法 | 宮城工業高等専門学校教授 | 梅沢伊勢三 |
| 3. 和辻哲郎氏の方法 | 山梨大学教授 | 湯浅泰雄 |

(なお以上三氏の研究発表は本号に掲載されている。)

主題発表の後、本学会会長石田一良氏(東北大学教授)により「日本文化の特質とその展開」と題する公開講演が行なわれた。

第三日目は、宮内庁図書館を見学し、また皇居内を拝観した。五〇余名が参加した。